

# 答申内容をふまえた取組内容報告

## 【第二分科会】



## 評価表(実績情報抜粋版)

事業名	見本市共同出展事業	担当部	地域振興部
		担当課	商工振興課

### 実績情報

成果指標							
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度
	1企業あたりの平均 獲得名刺数	機械要素技術展で 獲得した名刺数	枚	目標	—	—	—
					—	—	—
					27年度	28年度	29年度
					70	70	70
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度
	—	—	—	目標	—	—	—
					実績	—	—
					27年度	28年度	29年度
					—	—	—

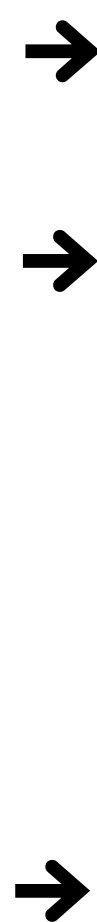


活動指標							
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度
	機械要素技術展出展 社数	—	社	目標	13	14	14
					12	14	17
					27年度	28年度	29年度
					14	15	15
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度
	—	—	—	目標	—	—	—
					実績	—	—
					27年度	28年度	29年度
					—	—	—
指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
—	—	—	目標	—	—	—	
				実績	—	—	
				27年度	28年度	29年度	
				—	—	—	

答申内容をふまえた取組内容報告

評価対象事務事業名	見本市共同出展事業	所管課	地域振興部 商工振興課
-----------	-----------	-----	----------------

平成27年度 行政評価委員会 第2回全体会における評価結果	
項目	提言内容
実績状況	<b>成果</b> <b>【成果指標】</b> ・出展企業数が目標値を超えているため、事業としては成熟している。 <b>【支援対象】</b> ・本事務事業の支援の対象となる企業数が、類似事業である「産業見本市開催事業」と比較して少ないため、不公平感がある。
	<b>コスト</b> <b>【費用対効果】</b> ・1社あたりの商談成立件数が少なく、対象となる企業数が少ないことから、現状のコストを投入し続けるべきではない。 ・本事務事業に出展した企業にどの程度の利益があり、その結果、区にどの程度還元されたのかを検証する必要がある。
今後の方向性	<b>廃止</b>
	<b>【事業の廃止、再構築】</b> ・本事務事業は廃止し、類似事業を強化するべきである。  ・来場者の目的意識の違い等から機械要素技術展への出展も一定の効果が見込まれるため、今後、機械要素技術展に出展する企業に対しては「見本市出展等経費助成」の活用や別の補助制度を検討し、企業が独自に出展できるような体制を整えるべきである。  ・本事務事業において構築された展示会出展についてのノウハウをマニュアル化し、経験の少ない企業が展示会に出展する際に、案内できる資料を準備するべきである。  <b>【事業の進め方】</b> ・区内企業の支援にあたっては、データにより実態を把握したうえで支援内容の検討を行うべきである。  <b>【PR活動】</b> ・区内産業の発展のため、PRをし続けていくことが重要である。「産業見本市開催事業」をはじめとして、これまで実施してきた事業について、引き続き区内外にPRしていくべきである。また、区内企業向けには、展示会出展についてのノウハウに関するマニュアル作成を行い、周知してはどうか。



事務事業改善の取組	
取組内容	
<b>【成果指標】</b> ・本事務事業の目指すべき成果を見直し、企業の商談機会を表す数値として、成果指標を1企業あたりの平均獲得名刺数とした。 <b>【支援対象】</b> ・関連する3事業は、企業が独自で販路拡大を図っていくための段階的かつ一体的な支援策として位置付けを整理し、実施していく。	
<b>【費用対効果】</b> ・下記「今後の方向性」に記載のとおり、無料出展枠を廃止するとともに、1社あたりの出展料を引き上げることにより、出展料収入を改善する。 ・答申後に再度アンケート調査を実施し、より正確な効果の把握に努めた。次年度以降も同様に、一定期間経過後にもアンケート調査を実施し、本事務事業の効果を検証する。	
<b>【事業の廃止、再構築】</b> 本事務事業については、以下の理由に記載のとおり、商談件数や契約金額に一定の成果があることなどから、区としては事業を継続する必要があると判断した。次年度以降は、以下に記載の改善策を講じた上で実施していく。  <b>①理由</b> ・答申後に行ったアンケート調査によると、商談件数や契約金額などに一定の成果が見られている。 ・「機械要素技術展」には、全国から様々な自治体が出展しており、23区でも葛飾、大田、品川、板橋、墨田(来年度からは荒川も出展予定)が出展している。また、上場企業や優良企業を含む9万人規模の来場者がある本展示会は、工業系では日本最大級の展示会であり、企業の販路拡大のみならず区内製造業のPRの場としても効果がある。 ・葛飾区としての共同出展に興味を持ちブースに立ち寄る来場者も多いことから、区が共同出展のスペースを確保していることは、中小企業が単独で出展することに比べてメリットが大きい。	
<b>②改善策</b> ・一般公募の企業のほか、「葛飾ブランド認定企業」や「優良工場認定企業」については1回に限り無料の出展としていたが、その枠を撤廃しすべてを一般公募の企業にすることで歳入を増やし、区の負担を軽減する。 ・また、1社あたりの出展料を段階的に引き上げることにより、出展企業に応分の負担を求める。 ・アンケートによる受注件数は調査しているが、企業の受発注はすぐに行われなかったことも多く、調査後に成立した事案については把握しきれなかった。出展の効果はある程度の期間が経過してから現れると考えられるため、これまで実施していた出展直後のアンケート調査に加え、年度末にも新たに「出展効果のアンケート調査を行うことにより、より正確な実態の把握に努める。	
<b>【事業の進め方】</b> ・販路拡大に関連する事業としては本事務のほか、「産業見本市開催事業」、「見本市出展等経費助成」があり、企業が独自で販路拡大を図っていくための段階的かつ一体的な支援策としてそれぞれの位置付けを整理している。企業がそれぞれの支援制度を段階的に利用していけるよう、各段階の移行状況の把握に努める。	
<b>【PR活動】</b> ・展示会に出展・展示する際のマニュアルを整備し、出展企業に提供していく。	

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	赤ちゃんの駅事業	担当部	子育て支援部
		担当課	育成課

基本情報

概要	公共施設を中心とした施設内におむつ替えや授乳可能なスペースを確保する。 このことにより、保護者が乳幼児と一緒に外出する時のおむつ替えと授乳などを気軽に行えるような環境を整備する。
----	--

活動内容	①おむつ替えベッド・授乳イス・ポット等を備えたスペースを確保し、「赤ちゃんの駅」を設置する。 ②設置場所にのぼり旗やステッカーを表示することで赤ちゃんの駅の位置を区民に知らせる。 ③区のホームページ、広報かつしかや、『育児支援ガイドブック』、『かつしか子育てマップ』（外部サイト）等において、設置場所を広く周知する。
------	--

施策番号	0602	子育て中の家庭を支援し、安心して子どもを育てられるようにします
事業の目的	乳幼児を育てる保護者が安心して外出できる環境をつくる。	

実績情報

成果指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	一ヶ月の利用組数	平成25年度の一施設あたりの月平均利用組数の「23」に設置数をかけた人数	23組×(設置施設数)	目標	897	1,012	1,081		
—	—	—	実績	—	—	1,099	—		
実績の評価・分析	平成26年度より、より明確な成果目標とするため、実績を基準にした成果指標に変更した。								
	一施設あたりの月平均利用組数「23」を基準に目標値を設定しているが、人が集まりやすい商業地域等、地域的な区民ニーズの偏在もありうる。								



活動指標									
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度	目標
	設置箇所数	新規設置箇所数	個所	目標	4	3	2		
—	—	—	実績	4	5	3	—		
HPや広報等での周知	周知の回数	周知の回数	回	目標	10	10	10	10	
	—	—	—	実績	5	11	11	—	
—	—	—	目標	—	—	—	—		
—	—	—	実績	—	—	—	—		

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	① 「赤ちゃんの駅」は、おおむね500m毎に1ヶ所設置することを目標としているが、スペース等に余裕のある公共施設への設置はおおむね終了している。今後、スペース等に課題がある公共施設に対しては、個別に対応していく。 一方、人の集まりやすい商店街などには公共施設が少ないため、民間施設の活用や協働の視点から研究する必要がある。 例えば、既存の民間施設で「赤ちゃんの駅」の機能を有している場所についても「赤ちゃんの駅」として登録し周知していくための設置基準の研究などである。
所管課評価による方向性	拡大 ①イベント等への「赤ちゃんの駅」設置の働きかけや、設置した場合ののぼり旗の貸出し等により、これまで以上に周知を図る。こうしたことにより、区内全域に「赤ちゃんの駅」を普及させていく。 ②商業地域等、人の集まる場所への設置を進めるため、設置基準の研究を進めつつ民間施設と協議をしていく。

コスト内訳(決算)

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	0	0
	国庫支出金	千円	361	64
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	1,404	1,249
	一般財源 (a)	千円		

事業費	直接事業費 (b)	千円	985	523	
	消耗品費	千円	535	428	カーテン、のぼり、おしりふき等
	備品費	千円	450	95	おむつ交換台、授乳イス
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
		千円			
人件費等	職員人件費 (c)	千円	780	790	
	人件費	千円	780	790	
	再雇用職員	人	0.10	0.10	
		千円			
		人	0.00	0.00	
	間接費 (d)	千円	0	0	
	調整額 (e)	千円	950	200	
	減価償却費	千円			
	金利	千円			
	退職給与引当	千円	950	200	
	(控) コスト対象外	千円			
	トータルコスト (f)	千円	2,715	1,513	

項目	単位	25年度	26年度	コスト増減の理由 既存施設の必要備品等の準備がほぼ終了し、新規施設の経費分となったため。
単位の定義	1ヶ月あたりの利用者数			
実績数値 (g)	組	23	26	
単位あたり区単コスト (a/g)	円	61,043	48,038	
単位あたりコスト (f/g)	円	118,043	58,192	

## 評価表(実績情報抜粋版)

事業名	赤ちゃんの駅事業	担当部	子育て支援部
		担当課	育成課

### 実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	一ヶ月の利用組数		平成25年度の一施設あたりの月平均利用組数の「23」に設置数をかけた人数	23組× (設置施設数)	目標	897	1,012	1,081
					実績	—	—	1,099
					目標	27年度	28年度	29年度
					目標	1,127	1,173	1,219
		指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度
		—	—	—	目標	—	—	—
					実績	—	—	—
					目標	27年度	28年度	29年度
					目標	—	—	—



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	設置個所数		新規設置個所数	個所	目標	4	3	2
					実績	4	5	3
					目標	27年度	28年度	29年度
					目標	2	2	2
		指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度
		HPや広報等での周知	周知の回数	回	目標	10	10	10
					実績	5	11	11
					目標	27年度	28年度	29年度
					目標	10	10	10
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	—	—	—	目標	—	—	—	
				実績	—	—	—	
				目標	27年度	28年度	29年度	
				目標	—	—	—	
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	—	—	—	目標	—	—	—	
				実績	—	—	—	
				目標	27年度	28年度	29年度	
				目標	—	—	—	

答申内容をふまえた取組内容報告

評価対象事務事業名	赤ちゃんの駅事業	所管課	子育て支援部 育成課
-----------	----------	-----	---------------

平成27年度 行政評価委員会 第2回全体会における評価結果	
項目	提言内容
実績状況	<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、利用実績を把握できているとは言い難い。利用実績について調査をおこなったうえで、今後の改廃を検討すべきである。</li> </ul>
	<p><b>コスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状は新規設置のみコストがかかっているが、今後はメンテナンスを実施していくべきであり、利用実態を把握した上で、必要があればコストを増加させるべきである。</li> <li>・コストは効率的にかけるべきであり、利用されていない場所は廃止し、その分を利用されている場所のメンテナンスや新たに設置する場所の整備に回すべきである。</li> </ul>
今後の方向性	<p style="text-align: center;"><b>改善</b></p> <p><b>【利用実態、要望の調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施には、アンケート調査などによる利用実態の把握が不可欠である。その上で施設の改廃について検討を行い、利用されていない場所は廃止し、利用されている場所にはコストをかけて拡充するべきである。また、新たな設置場所についても、利用者の要望を反映できるようにすべきである。</li> </ul> <p><b>【設置場所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画一的に500m毎に設置するのではなく、利用頻度が高そうな箇所に重点的に整備していくべきである。また、施設内の設置場所についても、利用者の利便性を考慮して設置すべきである。</li> <li>・設置場所によっては、民間と連携して整備することを検討すべきである。</li> </ul> <p><b>【PR活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者にとっては、公共施設だけではなく、民間施設含めてどこに整備されているかという情報が必要なため、合わせて周知できるよう取り組むべきである。</li> <li>・紙媒体では情報が増える一方のため、情報を目にする方とできない方の差が出てしまう。メールマガジンの登録など、子育て世代とつながる方法を導入し、地区別の情報や、子どもの月齢によって、様々な形での情報発信ができるよう検討すべきである。</li> </ul> <p><b>【メンテナンス、清掃】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつ交換台は不特定多数の利用があるため、定期的なメンテナンスや清掃が必要である。今後は、必要に応じてコストをかけて実施すべきである。</li> </ul> <p><b>【今後の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の設置基準にとらわれることなく、利用者の利便性を考え、おむつ交換台が設置されていれば誰でもトイレでも基準を満たしたとすることなど、考え方について検討すべきである。その際、必要に応じて公園課や民間施設との連携を図るべきである。</li> </ul> <p><b>【名称、表示のデザインの検討】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんの駅という名称では内容がわかりづらいため、名称変更を検討すべきである。</li> <li>・赤ちゃんの駅の設置に際しては、わかりやすい表示のデザインも必要であり、名称とともに検討を行う必要がある。</li> </ul>



事務事業改善の取組
取組内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員による利用者数の記録や、アンケートにより利用者数の把握を行っていたが、それに加えて受付簿の設置などできるだけ多くの人が記入してもらえるような工夫をし、より正確な利用実績の把握に努めていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実績を踏まえて効率的な経費配分の検討、見直しを行う。それにより、設備の買換えも含めて、メンテナンスの充実に努めていく。</li> </ul>
<p><b>【利用実態、要望の調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用実態の把握方法について、他区の状況を調べたが、有効な方法はなかった。これまでの調査方法を再検討し、職員による利用者数のカウントやアンケート調査に加え、○をつけるだけの簡単な受付簿を常時設置し、利用実績の把握に努める。また、アンケートなどにより利用者のご要望を聴き、今後の事業に生かしていく。</li> </ul> <p><b>【設置場所】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は500m毎に設置することとしているが、民間施設やおむつ交換が可能な誰でもトイレを含めて、乳幼児を連れての買い物や散歩など、日常生活を意識した視点から見直しを行う。</li> </ul> <p><b>【PR活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報かつしかや区ホームページなどにて引き続き周知を行うほか、平成28年度より開始する『自治体アプリ』でも、赤ちゃんの駅の情報を提供するよう準備を進めている。その際、赤ちゃんの駅の情報と併せて、おむつ交換が可能な誰でもトイレの情報も提供していくことで利便性の向上を図る。</li> </ul> <p><b>【メンテナンス、清掃】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会で指摘された、不衛生に感じられやすいおむつ交換台のフンを、抗菌材使用マットに交換する。また、赤ちゃんの駅設置施設に定期的な衛生状況の確認を依頼する。</li> </ul> <p><b>【今後の整備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置場所についての考え方や設置の基準等について見直しを行う。また、民間施設との連携については、認定条件や公民の役割分担などのしくみを早急に検討する。</li> </ul> <p><b>【名称、表示のデザインの検討】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民への事業のPRを充実させ、赤ちゃんの駅の名称等の周知を図っていく。</li> </ul>

平成27年度 行政評価委員会評価表

事業名	水辺のふれあいルーム運営	担当部	都市整備部
		担当課	公園課

基本情報

概要	平成7年4月に開設した水辺のふれあいルームは、周辺の施設や植生の日常的な維持管理を行うとともに、室内の展示、専門員による自然解説、広報誌の発行等を通して自然環境情報を提供する施設である。さらには、年間を通して開催される自然観察会や学習講座などに気軽に参加していただくことにより、水元小合溜の自然環境の素晴らしさや大切さを知ってもらう施設でもある。
----	---

活動内容	1. 施設規模 面積 134.98㎡ (レクチャールーム、展示室、倉庫) 2. 利用時間 4月から10月まで 午前9時から午後5時30分まで 11月から3月まで 午前9時から午後4時30分まで 3. 休館日 月曜日(祝日の場合はその直後の平日)、年末年始(12月28日~1月4日) 4. 事業内容 (1)水元小合溜における水辺に関する自然環境情報の提供及び資料の展示 (2)水元の自然観察その他自然に親しむ学習活動の実施及び啓発 (3)水辺に関する自然保護活動の支援及び育成 (4)水元小合溜の成り立ちや歴史の資料展示
------	--

施策番号	1202	河川を活かした快適な空間を整備し、多くの区民が水辺に親しめるようにします
------	------	--------------------------------------

事業の目的	自然観察や環境学習ができる場として、展示や解説、講座や広報媒体を通じて情報を発信し、歴史や自然への理解を深め、ひいては環境保護の啓発を図りながら、区民参加による水元小合溜周辺の自然環境を守る拠点となることを目的とする。
-------	---

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度
	実績	水辺のふれあいルーム利用者数	過去10か年の平均値	人	目標	33,765	35,453	37,226
				実績	30,229	30,015	32,024	
実績	自然講座参加者数	23人/1講座×講座数	人	目標	483	437	437	437
				実績	536	419	378	

(1)平成24年度に実施した事業者選定のプロポーザルでは、応募者からの提案条件を緩和し、利用者増加のための方策を模索した。  
 (2)従前は草刈りや樹木剪定等は別委託としていたが、管理運営業務に含めることで業務の効率化を図った。  
 (3)受託事業者のノウハウを活用するため、イベント等の企画に受託者の裁量を認める方式をとるなど、利用者サービスの向上を図った。



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	27年度
	実績	水辺のふれあいルーム開設日数	休館日と年末年始を除く開場可能日数	日	目標	306	305	306
				実績	306	305	306	
実績	自然講座及びイベント開催数	自然講座…19回 イベント開催…12回	日	目標	30	31	31	31
				実績	34	32	35	
実績	ボランティア活動日数	定例活動…4回/月程度 講座等補助…31回	日	目標	76	76	79	79
				実績	73	86	82	
	—	—	—	目標	—	—	—	—
				実績	—	—	—	—

方向性

評価してもらいたい点 ①あり方 ②課題	① 水辺のふれあいルームは、専門員による自然解説や季節に合わせた自然学習講座の開催など、自然環境の情報提供ができるフィールドとして事業を実施している。事業者の選定方法をプロポーザル方式にして業務提案を受けるなど、サービス向上や利用者増加に向け改善をしてきたが、利用者の増加が図れない。そのため、今後の事業のあり方や方向性について検討いただきたい。
所管課評価による方向性	改善 ①来館者を増やしていくためには、水辺のふれあいルーム(かわせみの里)の知名度を上げていく必要がある。 ②自然講座の内容について、マンネリ化しないように講座内容の検討をしていく。 ③築20年が経っており施設や設備の老朽化が進んでいるため、改修を検討していく。 ④他が主催する自然に関するイベントや催し物と連携を取りながら、自然環境情報のさらなる提供を行う。

コスト内訳(決算)

項目	単位	25年度	26年度	コストの主な内訳
収入	特定財源	千円	0	0
	国庫支出金	千円	0	0
	都道府県支出金	千円	0	0
	その他	千円	54	64
一般財源(a)	千円	13,717	14,104	

事業費	直接事業費(b)	千円	12,601	12,983	
	委託費	千円	12,554	12,940	管理運営委託、自動ドア定期保守点検委託
消耗品費	千円	47	43	書籍等購入	
	千円				
	千円				
	千円				
	千円				
	千円				
	千円				
	千円				
人件費等	職員人件費(c)	千円	1,170	1,185	
	人件費	千円	1,170	1,185	
	再雇用職員	人	0.15	0.15	
		千円	0	0	
		人	0.00	0.00	
間接費(d)	千円	0	0		
調整額(e)	千円	143	30		
減価償却費	千円	0	0		
金利	千円	0	0		
退職給与引当	千円	143	30		
(控)コスト対象外	千円	0	0		
トータルコスト(f)	千円	13,914	14,198		

項目	単位	25年度	26年度	コスト増減の理由
単位の定義		利用者実績		
実績数値(g)	人	30,015	32,024	
単位あたり区単コスト(a/g)	円	457	440	
単位あたりコスト(f/g)	円	464	443	



評価表(実績情報抜粋版)

事業名	水辺のふれあいルーム運営	担当部	都市整備部
		担当課	公園課

実績情報

成果指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	水辺のふれあいルーム利用者数	過去10か年の平均値	人	目標	33,765	35,453	37,226	
				実績	30,229	30,015	32,024	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	32,354	34,000	34,000
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	自然講座参加者数	23人／1講座×講座数	人	目標	483	437	437	
				実績	536	419	378	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	437	437	437



活動指標								
目標・実績	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	水辺のふれあいルーム開設日数	休館日と年末年始を除く開場可能日数	日	目標	306	305	306	
				実績	306	305	306	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	306	306	306
	指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度	
	自然講座及びイベント開催数	自然講座…19回 イベント開催…12回	日	目標	30	31	31	
				実績	34	32	35	
					27年度	28年度	29年度	
					目標	31	31	31
指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度		
ボランティア活動日数	定例活動…4回／月程度 講座等補助…31回	日	目標	76	76	79		
			実績	73	86	82		
				27年度	28年度	29年度		
				目標	79	79	79	
指標	指標の根拠	単位	区分	24年度	25年度	26年度		
施設PR回数	HP更新回数(19回) 施設ブース出展(2回)	回	目標	—	—	—		
			実績	—	—	—		
				27年度	28年度	29年度		
				目標	—	21	21	

答申内容をふまえた取組内容報告

評価対象事務事業名	水辺のふれあいルーム 運営	所管課	都市整備部 公園課
-----------	------------------	-----	--------------

平成27年度 行政評価委員会 第2回全体会における評価結果	
項目	提言内容
実績状況	<b>成果</b> 【成果指標】 ・現在の利用者数が年間で3万人を超えており、一定の成果は収めている。 ・自然講座参加者数は年々減少しており、対策を講じる必要がある。
	<b>コスト</b> ・利用者数に対してかかるコストとしては、現状の金額で問題ない。 ・かかるコストはほとんどが施設運営や保守点検等にかかるものであるため、現状に問題はない。
今後の方向性	<p style="text-align: center;"><b>改善</b></p> 【施設の利用者数】 ・現状でも一定の利用者数は確保できているが、平日の利用者数についてはまだ余裕があるため、講座の見直しや小中学生の見学等を検討することにより、改善していく余地がある。 ・現状ではハード面の充実をすることは困難だが、施設の老朽化に伴う改修の際には、利用者数を増加させることについても検討してはどうか。 【自然環境の保護】 ・無闇に利用者数を増加させることはせず、自然環境を守りながら改善していく必要がある。 【自然講座】 ・人気のある講座は複数回実施する、初級編や上級編といった分類分けをする、大人向け・子ども向けに内容を分ける、コストをかけて有名な講師を招くなど、講座の実施方法を見直すべきである。 ・講座の実績やアンケート情報を分析し、定期的に見直しをかけていくことが望ましい。 【PR活動】 ・小中学校と連携し、もっと子ども達に見学に来てもらうべきである。 ・水元公園全体としての利用の中で、他の見どころと合わせて本施設をPRしてはどうか。 ・本施設の取組みに限らず、自然環境に対する取組みを紹介したり、子ども向けに特化したパンフレットを作成するなど、自然環境の維持について広めるための手法を検討してはどうか。 ・水元公園は都立公園であるため、かわせみの里についても都の広報紙で紹介してもらえよう働きかけてはどうか。 【事業の進め方】 ・本施設の認知度を向上させる指標の設定や、本施設の利用により自然環境への意識に変化があったか等の指標を設定することにより、事務事業の改善に役立ててはどうか。 ・自然環境の保護については本施設に限らず、区全体でどのように取り組むのかという広い視野で検討するべきである。



事務事業改善の取組
取組内容
・水元小合溜の自然環境の素晴らしさや大切さを理解していただけるように、誰もが参加しやすい自然学習講座として、講座内容の見直しを図っていく。
・自然環境の情報提供ができるフィールドとして、今後もサービスを低下させず運営に努めていく。
【施設の利用者数】 ・これまでも小学校等の見学は受け入れてきたが、平成28年度には小・中学校向けの学校団体用パンフレットを作成するなど周知方法の見直しを行い、積極的に見学受け入れを図っていく。 ・施設内の設備改修等にあわせ、水辺のふれあいルームの運営方法について再構築を行い、より多くの利用者が訪れていただける施設運営を図っていく。 【自然環境の保護】 ・今後、施設の改修を行っていく際には、水元公園内の自然環境と調和を図り、周辺の自然環境が守られるような改修となるよう検討を行う。 【自然講座】 ・平成28年度からの講座内容について、大人向けや親子向けなどに内容を分けるなど、誰もが参加しやすい内容として計画するとともに、新たな講座も行い、幅広い年齢層が参加できるようにしていく。 ・次の講座に生かすための意見として、講座参加者のアンケートで上がった意見・要望を分析して参加者ニーズを把握し、より良い講座内容となる様にしていく。 【PR活動】 ・現在作成しているパンフレットの内容について見直しを行い、誰もが施設や自然環境に興味を持つようなものになる様に検討していく。また、そのパンフレットを有効活用し、学校や各種団体などに対して積極的に周知していく。 ・多くの区民に施設を知ってもらうため、2月4日(木)から12日(金)まで区役所2階区民ホールにおいて施設紹介を行った。展示内容や紹介方法を再検討しながら、次年度以降も行っていく。 【事業の進め方】 ・施設や自然学習講座の認知度を向上させる目的として、施設PR回数を活動指標に設定した。 ・環境課が主催している環境・緑化フェアで施設PRを行うとともに、自然環境保護についてPRするなど、環境課と連携を図っていく。